

Vol.17  
2013 AUTUMN

# INSIDE

[読ぐ]

It is possible to express the texture of the unique charm of "letterpress printing"

紙に個性を吹き込む  
「活版印刷」の魅力。



人の手の温もりを伝える、古くて新しい印刷技術

# 活版印刷

ムラのない美しい仕上がり、スピード、低コストが求められる現代の印刷。そんな時代の流れとは対極にある、アナログの機械とハンドクラフト。いま、手間と時間をかけて1枚1枚作りあげていく活版印刷が、若い世代を中心に人気です。微妙な文字のずれやインキのムラなど、手作業ならではの温もりは、デジタル印刷では決して表現できないもの。その古くて新しい魅力に、あらためて触れてみませんか？



未来に遺すべき“紙文化”  
「紙育 kami-iku」



- 辿る 01 「紙育(kami-iku)」  
自由な発想から生み出される「活版印刷」の新たな可能性。
- 出会う 06 「KPP人物図鑑」  
会長&社長の対談を収録。2人が描くKPPの未来像とは？
- 愛でる 09 「KAMI-WAZA 紙ワザ」  
あらゆる造形を創り出す林家二楽のハサミさばき。
- 伝える 10 「紙が紡ぎ出すものがたり」  
パーの紙ナプキンから始まった世界的名曲の誕生秘話。
- 深める 11 「KPP HEADLINE」  
KPP最新ニュースをキャッチアップ。
- 先ほど 13 「EDGE of PAPER」  
和紙でできた畳表&破るために作られたノート。
- 広げる 14 「PAPER TRIVIA」  
丸シールを使って描く美しい夜景の点描画。
- 感じる 15 「学びの一冊」  
学術的アプローチによる意志力の鍛錬方法とは？
- 作る 付録 「PAPERCRAFT on the DESK」  
物があふれがちなデスクでも安心。スマートフォンの特等席。

表紙の写真  
TokyoPearさんのデザインをもとに、活版印刷で仕上げていただいた「TSUNAGU」オリジナルカード。

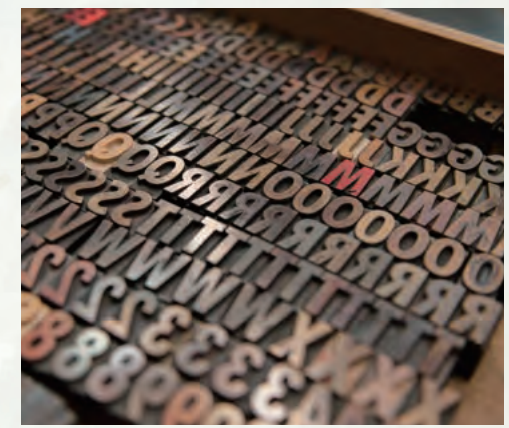


# 活版の新たな存在価値を見出したのは、ものづくりに対する真摯な姿勢

## 過去の印刷技術・活版印刷が若者の間で人気に

刻々と移りゆく時代の変化。めざましい技術革新が日進月歩で進む現代において、私たちは疑うことなく新しいものを受け入れ、古いものを忘れし続けています。しかし、使われなくなったものをじっくりと見つめ直すことで、そこに置き忘れてしまった大切な価値を見出すこともあります。

近年、ものづくりに携わる若いクリエイターを中心に、「活版印刷」の存在価値が高まりをみせています。活版印刷とは、活字を組み合わせた版や、亜鉛や樹脂などで造った版にインキをつけ、紙に押し付けることで印刷する昔ながらの印刷技術です。数十年前までは新聞や書籍に利用され、文字印刷の中心を担っていましたが、写植やDTPなどの普及によって取り扱い業者が激減したこと、さらにはパソコンプリンターなどのデジタル機器が一般化し、印刷技術も発達したこと、その姿を見ることはほとんどなくなりました。しかし、そのアナログな手法から生まれる仕上がりは、画一化された印刷物と見慣れている私たちの目には新鮮に映ると同時に、どことなく温もりを感じさせてくれます。そんな活版印刷の魅力を確認するために、埼玉県行田市にアトリエを構える、活版作家の元を訪ねました。



Tokyo Pear所蔵の木活字版。現在でも使用することができる。

## アメリカでブームとなっていた活版印刷との出会い

JR熊谷駅から車で約15分。迎えてくれたのは、「Tokyo Pear (トウキョウペア)」のスマス・ダレンさん、恵梨子さんご夫妻です。アトリエに足を踏み入れると、書体やサイズの異なる活字がずらりと並んだ活字棚。そして、ピカピカに磨き上げられた3台の古い鉄製印刷機が並んでいます。

Tokyo Pearのお二人が活版印刷の魅力に最初に触れたのは、アメリカ・シアトルのこと。「私がシアトルにいた2005年頃、アメリカでは活版印刷が一種のブームになっていたんです。街中の雑貨店でも活版印刷で作られたカードやカレンダー、招待状をよく目にし

ていましたね(恵梨子さん)。  
日米を行き来しながらグラフィックデザイナーとして活躍していたダレンさんと、現地のアートスクールに通っていた恵梨子さんにとつて、紙は身近で大切な存在であり、グリーディングカードを贈り合う習慣が浸透しているアメリカで多くの活版作品に触れたことが、二人にとって後の財産となります。

## はんなり店主を驚かせたカラフルな活版印刷

ダレンさんと恵梨子さんは、2007年に日本へ。グラフィックデザイナーとして活動する中で、日本では活版による作品を見かけないことが気になっていたそうです。その頃、偶然訪れた街のはんなり店で、活版印刷機と活字に出会いました。



スマス・ダレンさん、恵梨子さん夫妻。北欧風のデザインで統一されたアトリエは、昨年新築されたばかり。



「経営者のご夫妻から、活字の組み方、印刷の仕方など多くのことを教えていただいたこと。また、それまで使われていた活字を譲り受けたことが、活版への興味を強くすることに。その後、その印刷機を使って2色、3色刷りの作品づくりに取り組むようになりました(恵梨子さん)。

お二人が作った多色刷りの作品を見た店主は、「こんな活かし方もあったんだ」と大変驚かれたそうです。活版印刷では、色を替えること自体が面倒な作業。1色分を刷り終えたらすべてのインキローラーを取り外して洗浄しなければならぬため、2色であれば2倍、3色であれば3倍の手間がかかります。主にスミ1色の名刺を作っていた店主の目には、イラストをモチーフとしてパターン柄を施した色彩豊かな作品が、とても新鮮に映ったに違いありません。

## 長く丁寧に使いつけることで生まれる、古さゆえの味わい

「昔から、古くてアナログなものが好きなんですよ。そう話すのは、ご主人のダレンさん。「安く大量生産で作られたものではなく、良質で希少なものを。最新のものと比べれば不便な部分もあるんですけど、そこが愛おしく思えるんです」。その言葉には、質の高いものを大切に扱い、丁寧にメンテナンスをしながら長く使い続けようとするシンプルな価値観が伺えます。

現在、Tokyo Pearにある3台の活版印刷機は、いろいろな人の紹介を受けながら探し出したものとか。中にはサビだらけの印刷機もあったものの数カ月かけてオーバーホールし、原状回復させたそうです。

「操作方法については、機械を譲ってくれた方から1日講習を受けるだけ。昔の機械はシンプルな作りなので、意外にわかりやすいんです。

今年導入したばかりのドイツ・ハイデルベルグ社製の印刷機。比較的ロットの多い印刷に適していて、さまざまな紙、印刷に対応できる。版の面積が小さければ、約60トンの圧力をかけられるのも特徴のひとつ。

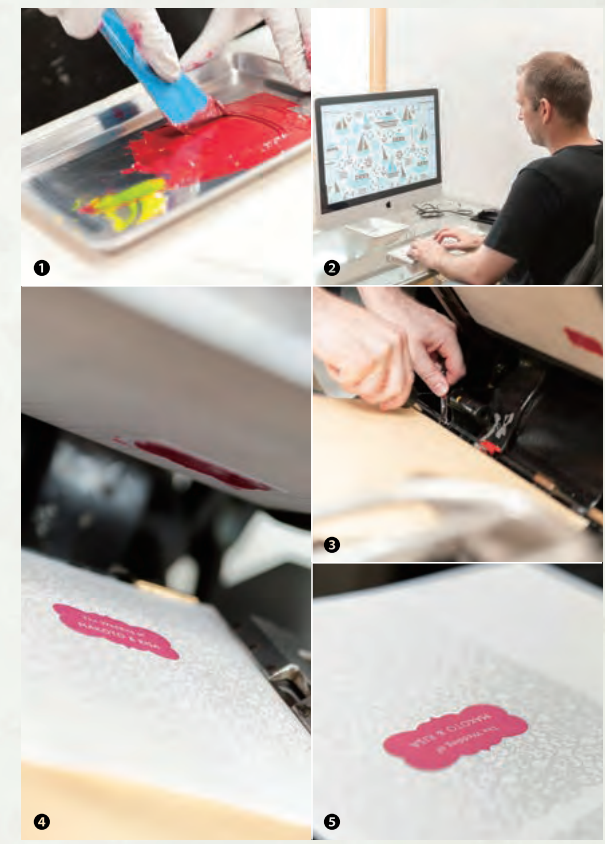


(左)自動で動くローラーに、手差しで紙を入れる半自動印刷機。(右)すべてを手動で行う小型印刷機。大きさは違っても、そのしくみは同じだとか。

## 活版印刷との相性が高いコットンペーパー

その後、2008年に「Tokyo Pear」そして本格的な活動を開始。手動式の活版印刷機を使って印刷した多色刷りのグリーティングカードやポストカードを、都内の雑貨店に置かせてもらうことになりました。

「商品の裏に印刷してあるホームページのアドレスを見たお客さまから、名刺や結婚式の招待状などのご注文をいただくようになりました。主人と私とはテイストが違うので、



①インキはバントン社製。所有している13色を配合して、ほぼすべての色を作ることができます。②DTPソフトを使ってデザイン・データを作成。③版の位置、印圧を手作業で調整。④チェースと呼ばれる版台にインキのついた版を載せ、紙に押し付けることで印刷。⑤グレーのパターン柄の上に、赤いロゴマークを印字。

お客さまの好みに合わせたデザインが提供できること、それに英語を併記できることも興味を持っていただくきっかけになったと思います(恵梨子さん)。

Tokyo Pearの商品に使われるのは、主にアメリカのクレイン社製のレトラコットンという、コットン100%の高級紙。繊維が柔らかくふわふわとした触感、優しい風合いが特徴のこの紙は、活版印刷との相性がよいそうです。「活版印刷の特徴のひとつが、版を押しあてることで生まれるくぼみ。それを生かすために厚めの紙を選んでいます。紙の質感はもちろん、文字の存在感がより際立つ、最適な紙だと思います(ダレンさん)。オーダーメイドで作る名刺やカードは、お客さまの要望に沿った紙を使って作っているそうです。



KPP を担うキーパーソンの素顔に迫る  
「KPP 人物図鑑」

赤松恭夫会長

TSUNAGU 対談

田辺 円 社長



Tokyo Pear 作品に使用した亜鉛版(上)と樹脂版(下)。

活版印刷の魅力は、均一ではない  
仕上りの人間らしさ。

本来の活版印刷では、「活字」と呼ばれる鉛でできた文字を文選という作業によって組み合わせたものが版として使われてきました。しかし今日では、DTPソフトで作成したデータを基に、亜鉛や樹脂の版ができるようになり、あらゆる書体の文字、多様な模様などの印刷が可能になりました。

「Tokyo Pear では主に樹脂版を使っています。樹脂版は少し柔らかいので、版の周りにしむことがあったんですけど、最近では硬さのある樹脂板が普及しているので、亜鉛版と比べて遜色がありません。また、お客さまのご要望によっては強い印圧がかけられるように、高さのある版を造ってもらうこともあります」(恵梨子さん)。

こうして造られた版を印刷機に取り付け、インキローラーが上下することで版にインキが付着。圧力をかけて紙に押し付けることで1枚の印刷物が刷り上がります。

「一番重要で、最も時間がかかるのは、印刷機に版を取り付ける位置決め作業。版が正確な位置になれば、当然印刷がズレてしまうの

で、何度も試し刷りをしながら調整しています」とダレンさん。しかし、印刷の微妙なズレやインキのかすれ、仕上りのムラも、活版印刷ならではのたしかな味わい。その1枚ごとに表情が異なる不均一な仕上がりに人のぬくもりを感じ、あえてそれを望むお客さまも多いそうです。「わずかな調整によって、仕上りの出来が変わってしまう。そんな人間らしさも活版の魅力ではないでしょうか。実際に多少のずれを想定した作品を作ることもあります。ただし、昔ながらの活版職人の方が見たら、「へたくそ」と言うでしょうね。当時の職人さんたちの理想は、できるだけキレイに、同じ品質のものをたくさん作ることで、できるだけ印圧をかけず、紙にインキを均一にのせることが模範とされていたわけですから」と話します。

先人たちが確立した技術をベースとしながらも、固定概念にとらわれずに自由な発想を加えることで、これまでになかった価値を生み出した活版印刷。その可能性は今後もますます広がっていくはずですよ。



Tokyo Pear 作品は、アメリカのペンテージ・デザイン、児童向けの本などからインスピレーションを受けて創作される。

若い感性と自由な発想が  
新しい価値を生み出す

Tokyo Pear の作品に共通する、シンプルで可愛らしく、ひと昔前のアメリカを感じさせるデザインは、ウエブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」のスタッフの目に留まり、タオル商品のデザインとして採用されました。その注目度の高さと比例するように、彼らの活躍の場が広がりつつあります。

「今後は多色刷りに挑戦したいですね。さらにこれまで以上にうまく印刷機を使えるようになつたら、細かい絵柄にもチャレンジしてみたい。それに、活版の魅力を伝える活動にも、積極的に取り組むつもりです」とダレンさん。これまでも参加してきたワークショップ・イベントに加え、Tokyo Pear オリジナルの展示会や個展、ワークショップの開催も視野に入れているそうです。

全国的に広がりがつつある活版印刷の人気。その火付け役となったのは、Tokyo Pear に代表される若いクリエイターたちです。「他の活



「ほぼ日刊イトイ新聞」とコラボレーションした商品「やさしいタオル」。

版作家さんとも密な関係を築いています。「ローラーを直すのは誰に頼むのがいい?」「この部品はどこで買える?」といった情報交換は頻繁に行っていますよ」(恵梨子さん)。

ここ数十年で印刷の表舞台から姿を消していった活版印刷。しかし、ものを慈しみ、自らの手でものづくりをする喜びを大切にしている若い世代によって、活版印刷の新しい価値が見直されています。大量生産の時代に、手間や時間をかけて作る活版印刷。その紙から伝わる温もりと手作りならではの味わいを、あらためて感じてみませんか?



Tokyo Pear (トウキョウ ペア)

ホームページ: <http://www.tokyopear.com>

ポストカードやグリーティングカード、プレゼント等に添えるミニカードの制作・販売のほか、招待状、DM、ショップカード、名刺等の特注品も手がける。また、10月29日(火)~11月3日(日・祝)の期間、ギャラリー・ドゥー・ディマ・ンシュ青山店にて、活動5周年を記念した展示会を開催。





国際紙パルプ商事株式会社  
赤松 恭夫 会長

1949年生まれ。1974年入社。印刷特需営業本部長を経て、2003年取締役昇進。05年常務取締役、06年専務取締役を経て、08年に代表取締役社長に就任。13年6月から現職。

—— 今後の経営方針についてお教えください。

田辺社長 わが社をさらに魅力的な企業に発展させ、持続的な成長を図るためには、事業構造の転換が不可欠です。その第一歩として、住商紙パルプとの合併、連結子会社であるダイエイパーパス インターナショナル コーポレーションを単体の中に組み入れることにより、紙事業、板紙事業、包材事業、製紙原料事業、海外事業という5本の柱ができました。コア事業である紙・板紙産業を起点に、国内事業の再構築、海外事業領域の拡大に向けたタスクフォースも完成し、次の事業展開に専念できる環境が整ったわけです。今後の中長期経営ビジョンについては、「G I F T + 1 2 0 2 4」をご覧ください。できればと思います。

赤松会長 今までの紙だけに依存するスタイルでは、流通業として成り立っていきません。国際紙パルプ商事は今まさに、大きな変革に向けたスタートラインに立っているわけです。私も田辺社長の考えに賛同していますし、できる限りの応援をしたいと思っています。

赤松会長 リーマンショックが起こったのが、社長に就任してわずか2か月後。それを契機に世界経済の崩壊がはじまった難しい時期だったと思います。過酷な経済情勢の中でわが社が存在感を誇示していくために、まず優先して取り組んだのが与信管理でした。リスクを減らすために、これまでのことを整理したうえでスタートする必要があります。その後、2011年には東日本大震災が起こったこともあり、5年の在任期間のうち2、3年は外的要因に振り回され、険しい時期だったのは事実であったと思います。

田辺社長 そのような大変厳しい経営環境下で、私は赤松社長体制を支えつつ、さまざまなことを勉強させていただきました。今年1月の住商紙パルプとの合併を経て、製紙原料の取り扱い規模が拡大するなか、古紙、板紙やフィルムといった包装資材など、新たな事業分野について勉強しつつ、新たな人脈づくりができました。また、長期経営ビジョンの設計や海外事業の仕組みづくりについて、じっくり考える時間をいただいたことは、とてもありがたいと感じています。

赤松会長 企画力とそれを具現化する力、そして何より新しいチャレンジに対して決してめげることのない意思力が、田辺社長の最大の魅力だと思っています。大量の製紙原料を抱え、お客さまの人脈を広げなければならぬ状況でも、めげることなく、絶対に自分のものにしてやるぞという気概を持ってやってこられた。その執念で支えてもらったからこそ、社長を続けることができたと思っています。今後は私が田辺社長をフォローする番です。

田辺社長 ありがとうございます。赤松会長からは的確なアドバイスとともに、いろいろな方をご紹介いただいています。今後とも業界活動、経営全般のサポートを宜しくお願いします。

—— 赤松会長が社長として、陣頭指揮を執られた5年間。今あらためて、どのように感じていますか？



田辺社長 この「TSUNAGU」を発行して7年。読者のみなさまに、わが社を知っていただくきっかけになれば幸いです。今後は読者の方の意見も誌面づくりに活かしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

—— 最後にこの「TSUNAGU」を読んでくださっている読者の方にメッセージをお願いします。

赤松会長 先日、お客さまの元にお伺いした際、この「TSUNAGU」の記事について話に花が咲きました。この「TSUNAGU」を通してより広く、いろいろな方がわが社や紙の魅力に興味を持っていただき、新しいコミュニケーションが生まれる。これからもそんな誌面づくりを続けていきたいと思っております。

田辺社長 それに、従業員エンゲージメント、つまりは会社に対する愛着心も重要です。愛着心があれば、会社という組織全体の成功に向けた結束心や献身的な姿勢につながり、企業としての組織力が高まってくると思います。

赤松会長 社員の方々が愛着心を持ち、自分が会社のために何をすべきなのかを考えれば、自ずといろいろなアイデアが生まれるはずです。その積み重ねが企業の発展、社員一人ひとりの成長につながるに違いありません。

最後は自分自身の頭で考えたり、実際に行動してみることではじめて変わるものだと思います。日々の業務が忙しいとは思いますが、時に立ち止まって考える時間をつくる。この余裕を持つことがその人の成長につながるのではないかと思います。

田辺社長 さらに、物事を考えるうえで、少し俯瞰してみる。鳥の目、足元をしっかりと見つめる。蟻の目を常に意識することが重要です。このズームアウト、ズームインを繰り返すことで、問題解決力が高まるはずです。そのためにも社員のみならずには、多くの人や本に出会ってほしいですね。

赤松会長 人づくりは「朝夕にはできないものです。ある日、ふと振り返ったら大きく成長していたというのが人だと思います。

赤松会長 そのベースとして、個々の成長も大切ですね。OJTなど、会社としてできることはすべてやりますが、

田辺社長 まずは成長エンジンとなる人材づくりが重要です。我々が設計した事業計画を実行するためには、優秀な人材が必要ですから。

赤松会長 わが社が伝統的に培ってきた強みは、お客さま、お取引先との信頼関係を築ける、「人」という強い財産。しかし、その強みが時代とともに薄れつつあるように感じます。忘れかけている大切なことを一つひとつ思い返し、あらためて財産づくりを始める必要性がありますね。

田辺社長 先輩方が築き上げてくださったお得意先は、素晴らしいお客さまばかり。みなさんに対して情報発信をすることで、さまざまな新しい価値が生まれます。また、わが社は幾度かの合併を経験していますが、新たに加わった人材との化学反応によって新たな活力と価値を生み出してきました。弁証法的なレベルアップができたことも、わが社の成長につながっています。

赤松会長 そのベースとして、個々の成長も大切ですね。OJTなど、会社としてできることはすべてやりますが、



国際紙パルプ商事株式会社  
田辺 円 社長

1949年生まれ。1971年入社。営業推進営業本部長、製紙原料事業本部統括などを歴任。2004年に取締役昇進。06年常務、08年専務、12年代表取締役副社長に就任。13年6月から現職。

—— 「G I F T + 1 2 0 2 4」で掲げた経営目標を達成するために、今後何が必要だとお考えですか？



# 紙に秘められた"こころ"に触れる 「紙が紡ぎ出すものがたり」



ゆかりのバーは、現在も営業中。スコアが壁に飾られている。

1950年代後半、ブラジルの中産階級のアーティストや学生たちの手によって生まれた音楽ムーブメント、「ボサノヴァ」。伝統的なサンバのリズムをベースとしながらも、洗練された革新的なサウンドは多くの人たちのハートをつかみ、世界的ブームとなつてさまざまな国の音楽シーンに影響を与えました。なかでも、ビートルズの『イエスタデイ』に次いで世界中でカバーされたポップソングのひとつと言われ、代表的な楽曲とされているのが、アントニオ・カルロス・ジョビン作曲、ヴィニシウス・チ・モライス作詞の『イパネマの娘』。リオデジャネイロのイパネマ海岸

## 第七回 世界的なボサノヴァの名曲『イパネマの娘』誕生秘話 紙ナプキンに書き込まれた「サウダージ」

を散歩する美しい女性への憧れを綴った歌詞は、彼女への届かぬ想いを物悲しく訴えたその叙情性で、ポルトガル語のサウダージ(Saudade: 憧憬、思慕、郷愁などの意味を持つ言葉)のニュアンスを広く伝える名曲として、高く評価されています。

じつはこの曲、実在のモデルがいることでも有名です。リオのイパネマ海岸近くのバー「ヴェロゾ」に集つては酒を飲み、音楽談義に花を咲かせていたボサノヴァ・アーティストたち。歌手兼ギタリストのボサノヴァの父、ジョアン・ジルベルトをはじめ、作曲家のジョビン、ブラジル政府の外交官にして詩人でもあったモライスらも、その例にもれず、ヴェロゾに集まっていたメンバーでした。

二人は当初、この曲をエロイザさんを歌ったものとして彼女へ個人的にプレゼントするつもりでしたが、年齢を考慮して彼女が20歳になるまで、そのこ



今年で70才になった、エロイザさんの人気は今も衰えません。

イパネマの娘 (原題:Garota de Ipanema) 1964年、アメリカの著名ジャズ・ミュージシャンであるスタン・ゲッツとジョアン・ジルベルトが連名でリリースしたアルバム「ゲッツ/ジルベルト」に収録された楽曲。当時のアルバムでは、ジョアン・ジルベルトの妻であるアストラッドが歌っている。

とを伏せていました。当時のエロイザさんの彼氏(現在の夫)は、彼女のことや意図など知る由もなく、自分の恋人が、変な大人に付きまとわれているかと思ひ込み、殴りこみに「ヴェロゾ」に行きますが、二人に言いくるめられて仲良くなつてしまつたとか。

そしてエロイザさんが20歳になった年、『イパネマの娘』にモデルが実在することを世間に発表すると、瞬く間に彼女はメディアを賑わす人気者に。美貌も手伝いその後はモデルとして活躍、現在でもエロイザさんの人気は衰えることはありません。

また、作曲のきっかけの場となったバー「ヴェロゾ」は、のちにこの曲にちなんで「ガロータ・ヂ・イパネマ」と改称され、現在でも営業が続いています。来年のサッカーW杯、2016年のリオ五輪で、再び注目が集まることになるかも知れません。



紙切りの実演をする林家二楽さん。切っている間も軽快で楽しいトークは途切れることはない。

# 紙を愛する匠たち 「KAMI-WAZA 紙ワザ」

## 目で愉しむ即興の技、林家二楽さんの「紙切り」

紙切りとは、寄席の客から受けたお題を、はさみと紙だけで即興で形にしてみせる、江戸時代から続く伝統芸能です。

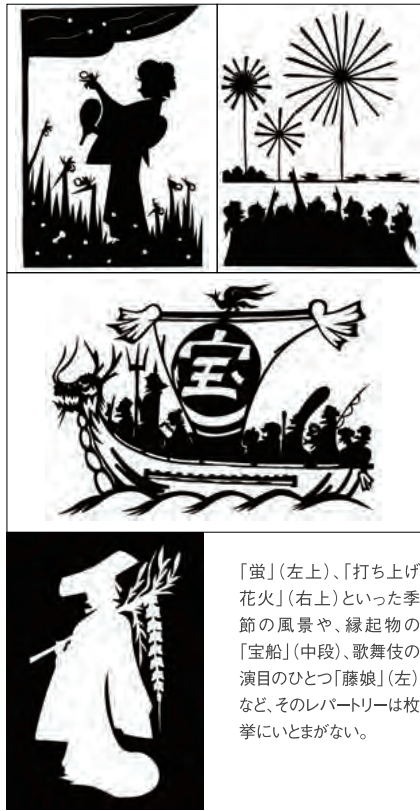
「ただのお題は、何でもあり。それをそのまま切るのでなく、どう解釈して、どう見せるかもテクニクのひとつです」。そう話すのは二代目紙切り林家正楽(しんらく)を父に持つ、林家二楽(にらく)さん。リクエストの内容は、歌舞伎の演目や風物詩といった古典的なものから、日常の風景、時事ネタを題材にしたもの、さらにはアニメのキャラクターやアイドル歌手など多種多様。その繊細なシルエットと芸術性は、はさみ一本から生まれたとは思えないほど見事なものです。

どうやってレパートリーを増やしていくのかと尋ねてみると、「人物は基本横顔で、角度と口の開き方で喜怒哀楽を表現します。女の子がうつむいて歩いていけば、失恋した様子といった具合ですね。あとは、パーツの組み合わせが基本です。同

じ胴体でも長い鼻をつければ『象』、大きい口をつければ『カバ』となる。どんな注文にも応えられるように、パーツの引き出しを増やすことを心がけています。また、流行だけでなく何にでも好奇心を持つてものを見ることも大切ですね」と教えてくれました。

二楽さんが紙切りに使う紙は、一般的な画用紙ではなく、表面が平らで滑らかな上質のケント紙。「画用紙は、切った時に毛羽立ち、切り直しをしやすい反面、切り口が半年もしないうちに赤茶けてしまう。紙切りでは切った紙をお客さんにプレゼントするので、向いていないんです」と言います。

最後に、これまでの注文で一番困つたものを聞いてみると、「こじや、言えませんよ。この記事を読んでそれをリクエストされると困りますから(笑)」とのこと。ユーモアたっぷりの粋なトークとため息が出るほど見事な手技。決して高くない寄席の敷居をまたいで、紙切りの世界を楽しんでみませんか？



「螢」(左上)、「打ち上げ花火」(右上)といった季節の風景や、縁起物の「宝船」(中段)、歌舞伎の演目のひとつ「藤娘」(左)など、そのレパートリーは枚挙にいとまがない。

### 林家二楽さん公演情報

- 11/23(土・祝) 『お江戸寄席の華 その4落語二席プラスワン 柳家三三プレゼンツ さくら亭寄席vol.11』 15:00開演 ○会場:東京・武蔵村山市民会館 小ホール ○共演:桃月庵白酒(落語) ○問い合わせ:武蔵村山市民会館 TEL: 042-565-0226
- 11/28(木) 『空しく文化公演「柳家花緑 林家たい平 二人会」』 18:30開演/19:00開演 ○会場:佐賀・鳥栖市民文化会館 小ホール ○共演:柳家花緑、林家たい平、マジックの鐘ナガ ○問い合わせ:鳥栖市民文化会館 TEL: 0942-85-3645
- 12/11(木) 『市馬・昇太・たい平 忠臣蔵でござる』 19:00開演 ○会場:兵庫・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール ○共演:柳亭市馬、春風亭昇太、林家たい平 ○問い合わせ:芸術文化センター チケット オフィス TEL: 0798-68-0255

### 林家二楽(はやしやにらく)

1989年に、父である二代目紙切り林家正楽に入門、1991年に紙切り師として初高座。その後、紙切りと落語を融合した「紙ワザ」や、音楽やOHPを使った独演会「二楽劇場」、親子で紙切りを体験できる「おやこ紙切り教室」、クラシック音楽と紙切りを同時進行する物語仕立ての音楽会などを各地で開催。新しいスタイルの紙切りに挑戦し続ける。また、毎年夏にはアメリカ・ミッドベリー大学を訪れるなど、海外に紙切りの文化を広める活動にも積極的に取り組む。受賞歴に国立演芸場花形演芸大賞金賞(2002年)、国立演芸場花形演芸大賞金賞(2005年)ほか。兄は落語家の桂小南治。





NEW SYSTEM

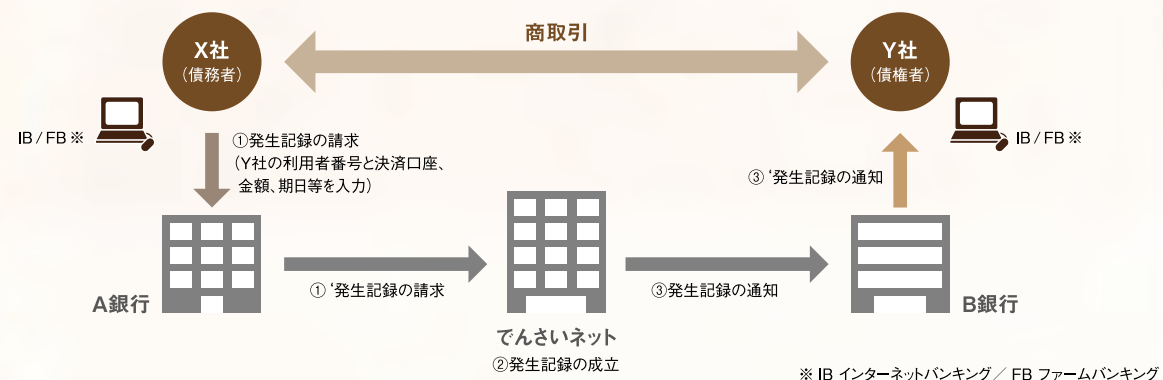
事務負担、管理コストを軽減する「電子記録債権」を導入しています。

当社では、昨年の6月より業界に先駆けて電子記録債権を導入しています。電子記録債権制度とは2008年12月に、中小企業など事業者の資金調達の円滑化を図るために創設された制度です。支払企業にとっては手形発行・振込の準備などの事務負担が軽減するうえ、印紙税が不要になるといったメリットがあります。また、納入企業にとっても、電子記録債権を利用することで紛失や盗難の心配がなくなり管理コストが削減できる、期日になると自動入金されるなど双方にメリットのある決済システムです。

当社は将来的に支払いを電子記録債権に一本化することをめざして業界内での利用促進を働きかけており、現在取引先のうち約60社に導入いただいています。

また、株式会社全銀電子債権ネットワーク(通称:でんさいネット)より、利用状況が順調との評価をいただいております。このたび同社のウェブサイト「でんさいネット」の「お客様の声」のコーナーへ利用事例が掲載される運びとなりました(10月上旬掲載予定)。ぜひご覧ください。

でんさいネット <http://www.densai.net/>



SEMINAR

安全衛生委員会主催の「介護セミナー」が開催されました。



高齢化社会の到来により、自らの「老い」だけでなく、誰もが家族等の介護者となる可能性が高まっています。いざ介護者となると生活や環境面の変化に戸惑うことも多く、仕事と介護の両立に対する不安を抱え、相談先をスムーズに見つけられないケースが増えています。

この度、当社安全衛生委員会では仕事と介護の両立支援の一環として、外部講師による「働きながら介護を乗り切ろう」と題したセミナーを開催しました。

当日はTV会議システムで各店を結び、突然やってくる介護への基礎知識や社会支援制度、介護に直面した際の対応方法など、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の実現に向けた講義が行われました。

EXHIBITION

本社1階エントランスでの年間を通した企画展示「KPPのイチおし!」

当社では、本社1階エントランスのギャラリースペースにおいて、「KPPのイチおし!」と題し、年間を通した企画展示を実施しています。昨年11月のスタート以来「これが面白い・大切だ!」と思うビジネスや当社が展開している社

会貢献活動を紹介しており、今年9月開催の「Pack+1」(包創力⇒豊かな暮らしへ)で5回目となります。これまで本誌に掲載できなかった企画展示も含め、この1年間の内容をあらためてご紹介致します。

第1弾

「かく、よむ、つつむ、あそぶ — Fieldからの提案」

王子ペーパーライブラリーとのコラボレーション企画として「かく、よむ、つつむ、あそぶ」の4つの視点からみた紙の魅力PR。また、約1,000種類の紙をそろえ、紙1枚から購入できる当社運営のECサイト「Papermall」を紹介しました。



第3弾

「仙台七夕飾り」

昨年に引き続き、社会貢献活動の一環として全社で七夕飾りを展示しました。期間中、各支店ではミニチュア飾り、本社では約4メートルの七夕飾り5基を設置するとともに、その制作過程を映像で紹介。この企画を通じ、社員一人ひとりが被災地復興への祈りをあらたにしました。また、当社では七夕を通して、地域と世代をこえた紙の文化交流につなげていきたいと考え、今年8月に実施された「仙台七夕まつり」のテーマは、奇しくも「つなぐ」。これには被災地の復興への思いと、全国の支援者の気持ちをつなげていくという意味が込められています。



第2弾

「みて・はかって ecomo体験」

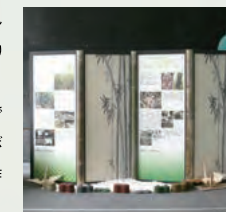


当社開発営業本部がビジネス展開中の「オフィスecommo(機密文書回収システム)×タウンecommo(古紙回収システム)」の体験コーナーを設け、来場者のみなさんに実機の実機操作体験をしていただきました。また、導入先の設置状況やお客様の感想などを映像で紹介しました。

第4弾

「竹を通した環境貢献」

中越パルプ工業が社会貢献活動の一環として推進している「竹紙」と、当社仙台支店・鳴海屋紙商事が取り組んでいる「仙台七夕竹紙プロジェクト」を紹介しました。焼却処分されるのが通例であった仙台七夕まつりで使用した竹を有効利用し、中越パルプ工業とのコラボレートによって紙の原料に利用しました。竹の集積作業や回収作業の様子を映像で紹介しました。



第5弾

「PACK+1」(包創力⇒豊かな暮らしへ)

普段何気なく使っているパッケージ。さまざまなシーンで人々の暮らしに豊かさをプラスしている包装資材の数々を紹介。当社の経営ビジョン「GIFT+1」における、INNOVATION(創造)を加えた「包創力」をテーマとした企画展示です。みなさまのご来場をお待ちしております。

○開催期間:9月24日~11月8日

開催中



紙の“先端”にフォーカス  
「EDGE of PAPER」

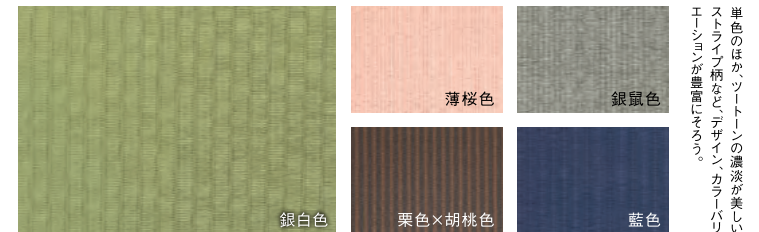
01 「ダイケン健やかおもて」  
発売：大建工業(株) <http://www.tatamilife.com/>

い草の特性を継承した  
和紙でできた畳表。

平安時代から続く日本家屋の伝統的な床材であり、日本文化の象徴として広く海外にも知られる「畳」。しかし、原料となる天然い草の減産、居室の洋風志向を受け、伝統的な畳の需要は減少の一途を辿っているとか。そんな畳市場に一石を投じたのが、和紙を原料に用いた畳表「ダイケン健やかおもて」です。機械抄きの和紙を筒状の糸にし、耐久加工を施したものを編み込むことで、商品化に成功しました。い草の持つ調湿性と肌触りはそのままに、傷や汚れに強く、い草の約3倍長持ちします。紫外線による変色や色あせに強く、カビやダニも発生しにくいというから驚きです。また、和紙ならではの豊富なデザイン、カラーバリエーションで、洋室空間とのコーディネートがしやすいことも人気の理由です。い草同様、植物の特性を活かした和紙製の畳表。新築やリフォームの際に検討してみては？



清流シリーズ 胡桃色の施工例。緻密でシンプルな折り目が美しく、リビングなどの洋装にもコーディネートしやすい。



単色のほか、ツートーンの濃淡が美しいスライア柄など、デザイン、カラーバリエーションが豊富にそろっている。

02 「スカットノート」  
発売：(有)エディット <http://www.edit-note.com/>

音と手応えにこだわった  
“破る”ための紙。

現代生活につきもののイライラやモヤモヤ。そんなストレスを発散するために、“破る”ことを前提として開発されたのが、この「スカットノート」です。その使い方は至って簡単。ストレスの原因や吐き出したい感情を思いのままにノートに書いたら、大声を出しながら粉々に破るだけ。その効果を実際に試してみると、「ピリッピリッ」という大きな音、適度な手応えの抵抗感は、納得の破り心地。破り終えると、心なしかさっぱりした気持ちになります。紙を使った新しいストレス解消法、ぜひ一度お試しを。



a Present for the Heart  
SUKATTO



表紙は人の目に触れても違和感のないポップなデザインなので、上司に診察される心配もなし。

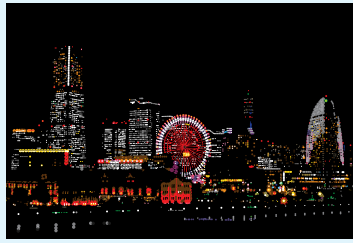
紙の持つ可能性・面白さ再発見  
「PAPER TRIVIA」

小さな丸シールが幻想的な光を描き出す。  
文房具を画材にした新感覚アート。

黒いキャンパスの上で、色とりどりの光が  
艶美に輝く夜景。写真なのか、絵なのか、遠  
目にはわからないこの作品。画材として使わ  
れているのは、資料の仕分け等に使用される定  
番の文房具、丸シールなのです。

このアート作品を描くのは、丸シールのみ  
で夜景を表現する手法で注目を集める気鋭  
の美術家、大村雪乃さん。今年3月に美術大  
学を卒業したばかりの彼女がこの表現方法  
を思いついたのは、約2年前。「シールを貼る  
という簡単な作業だけで作品になる。特別  
な才能がなくても自由に絵を描けるアート  
環境を作りたい」との思いが、身近な丸  
シールを使った創作につながったそうです。

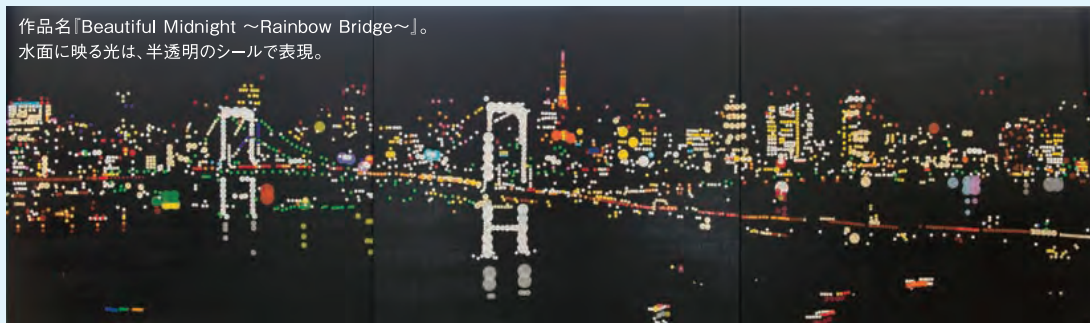
大村さんの作品がスポットライトを浴び  
るきっかけとなったのは、東京・六本木ミッド  
タウンで開催されたアートコンペでのこと。  
「題材は、豪華ホテルの1室からの眺望。シー  
ルという安価な素材を使って美しくゴージャ



横浜・みなとみらいのランドマークが美しく光る  
作品「Beautiful Midnight ~横浜~」。



間近で見ると、一つひとつの灯りが丸シール  
だとわかる。



作品名「Beautiful Midnight ~Rainbow Bridge~」。  
水面に映る光は、半透明のシールで表現。



大村 雪乃 さん

1988年、中国生まれ。2013年、多摩美術大学(油  
画専攻)卒業。2012年東京ミッドタウンアワードに  
て入賞、オーディエンス賞を受賞。10月1日~10日  
まで、ピンクリボン運動をテーマにしたコニカミノルタ  
主催の作品展「Beautiful Pink」に新作を出展中。  
(詳細: <http://konicaminolta.jp/plaza/>)

スな夜景を描くことで、金銭感覚のギャップ  
を表現したかった」という作品は、アートシー  
ンの第2線で活躍する審査員から高い評価を  
受け入選を果たし、多くの来場者の支持で  
選ばれる、オーディエンス賞を受賞しました。  
そんな大村さんは、さまざまな企業とのコ  
ラボレーション、観客にもシールを貼ってもら  
い作品を作る公開制作のほか、丸シールを  
使ったアートワークショップも積極的に展開  
されています。「丸シールの可能性は、まだま  
だ広がっていくはず。夜景以外の分野でも、  
シールを使った作品を発表していきたい」と  
話します。

サイズ、素材感、インキの光沢や発色、透  
け感の異なる多色のシールを自在に配し、そ  
の街を象徴するネオンや一つひとつの灯りを  
作り出していく大村さんの丸シールアート。  
文房具の新しい価値を創造する新感覚ア  
ートに、ぜひ一度触れてみてください。

編集後記

今では商業印刷の場面ではほとんど使われ  
なくなってしまう活版印刷の機械。印刷  
屋さんには処分するにも費用がかかるため持  
て余っていたそうです。そんな活版印刷で  
すが、クリエイターの視点から新しい価値を  
見出したTokyo Pearさんによって、形  
を変え再び活躍の場を取り戻しました。今  
回は特別にTSUNAGUの表紙撮影用  
にロゴ入りのカードを活版で印刷してい  
ただきました。自然にできる、かすれや陰  
影が独特な風合いになっていて、活版印刷  
を知らない世代にもその魅力が伝わる温か  
みのある表紙になったと思います。また、今  
号には付録としてスマートフォンスタンドを  
付けました。紙製ながら大きな画面のスマ  
ホも立てられる仕様になっていますので、ぜ  
ひ組み立ててご使用ください。(M.T)

3か月ごとの発行となっている広報誌  
「TSUNAGU」。多くの方に読んでいた  
だけのように、期待感を持てる誌面づくりを  
めざしています。KPPらしさを視覚によ  
う高めたいとの意識から、毎号表紙にも思  
い入れがあります。読んでいただくための工  
夫として、それぞれのページに合った題材、  
掲載内容は適正か? タイムリーな掲載がで  
きているか? 当社の方針に合っているか? 読  
者の方とのコミュニケーション(媒体)と  
しての機能は? 等、多くの思いをお伝えで  
きるよう心掛けております。わずか16ペ  
ージの中に、今回は特集ページ掲載もあり、よ  
りメッセージ性の高い内容となるように努  
めました。広報誌「TSUNAGU」は、情  
報を半日単位で届ける新聞、1週間ごと、  
1か月ごとの情報を伝える週刊誌や月刊  
誌とはもちろん、大きく異なりますが、編  
集者側の私どもの思いと、当社の情報を伝  
える方法として、とても大きな役割を担っ  
ていると強く感じます。(S.S)



感じる  
Kanji-ru

マインドを築き、学び、夢を叶える  
「学びの一冊」

## 受講者の97%に影響を与えた 意志力を鍛える「奇跡の授業」。

ダイエット、禁煙、節約、さらには仕事の成績アップ……。そのために何をすべきなのか、多くの人はわかっているもの、いつまでたっても実行できない。本書はそんな方々の指南書となるべく書かれたもの。

著者は、アメリカ・スタンフォード大学で「意志力の講座」を担当する新進気鋭の心理学者。意志力をどのようにコントロールするかをテーマにした10週間分の授業内容を、10章にわたって紹介している。最新の心理学や脳科学、生理学などの実例や実験をもとに、なぜ誘

惑に負けてしまうのか、どうすれば続けられるのかを考える科学的な講義には、納得する話が詰まっている。

「サラダを見るとジャンクフードを食べてしまう」。これはニューヨーク州立大の研究結果であり、健康によさそうなメニューがあると、それを見ただけで達成感を得て、本능が欲する高カロリー食に手を出してしまうのだとか。これは、目標達成のために作る「ToDoリスト(やることリスト)」も同じこと。リストが完成した達成感が大きく、まだやってもいないことをやった気になってしまうメカニズムだ。

本書は、脳の構造と動きから、行動パターンとその理由を明らかにするだけでなく、その場でできる意志力強化への具体的な戦略が示されている。下半期がスタートした今から準備を始めれば、半年後の自分が変わっているかもしれません。



スタンフォードの自分を変える教室  
ケリー・マクゴニガル(著) 神崎朗子(訳) / 大和書房



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコ・プレス  
バインダー

針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社  
KOKUSAI PULP & PAPER CO., LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号  
TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>





紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

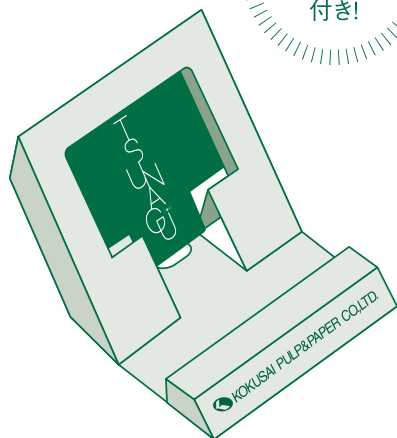
# SPECIAL EDITION

TSUNAGUオリジナル

## スマートフォン用 ペーパースタンド

書類やファイルが積み重なったデスクで、スマートフォンが行方不明！ そんな非常事態もこれさえあれば大丈夫。スマホの指定席を作ってあげれば、ちょっぴりストレスが解消できます。もちろんタテ、ヨコどちらで置いてもOKです。

2段階  
角度調節  
付き!



◀ 作り方は裏面をご参照ください。

本誌は加賀製紙(株)KGナチュレ  
310gを使用しています。

